

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイ ベアービー		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 22日		

○ 分析結果

* 開所初年となる2025年度、放課後デイサービス利用者がなかったため、児童発達支援事業の自己評価の総括を掲載。

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・バラエティー豊かで子どもが楽しめる実践的個別療育 ・子どもの特性を踏まえ、苦手なところも得意なところも伸ばすオリジナルプログラム	・子どもの特性は、[発達検査]および[脳バランサーキッズ]の結果を参考に把握し、放課後等デイサービス計画に反映させる。計画を基に実施するプログラムは、子どもの発達年齢に則した難易度であることや、子どものウイークポイントを伸ばすと同時にストロングポイントも伸ばせるよう、教材の選定には配慮している。 ・実施プログラムは、「認知機能アップ遊び」「注意機能アップ遊び」「ソーシャルスキルアップゲーム(SST)」「感覚統合遊び」と、多角的なアプローチを行う。	・どの指導員も実施できるよう、体系化を目指す。
2	保護者支援の充実	・2025年度は、ペアレントトレーニングとして、子どもと温かな関係を作る関わり方のコツをお伝えする講習会を実施。 ・個別の家族支援プログラムとして、親子の関係性改善のための「PCIT・親子相互交流療法」を必要に応じて順次実施している。 ・日常的には、送迎時、連絡帳やチャットを通して、保護者様から様子を聞かせていただいたり、連絡帳に報告しきれないことをお伝えして共通理解に努めている。 ・すべての指導員が、保護者様とコンタクトを取り、風通しの良い環境を作れるよう配慮している。	・今後も、気軽に相談できる環境となるよう心掛けたい。 ・利用者のニーズなどを踏まえながら、ペアレントトレーニングの実施を検討していきたい。
3	他機関連携	・保護者様からのご要望によって、あるいは、対象児の困り感が、個別支援時にはわかりにくい場合等、他機関連携が必要だと思われるケースでは、(学校)園に伺っている。集団活動の様子を観察させていただき、担当教諭より日常の様子を伺っている。訪問後は、(学校)園に対して、専門的所見と対応の提案をお伝えすると同時に、(学校)園と事業所でできる対応について協議、また、保護者様に報告することを通して、共通認識を持ち、子どもに対して一貫性を持った対応ができるよう努めている。 ・その他、医療機関・公的相談機関・(学校)園からのリファーにより療育を実施、定期的に情報共有を行っている。	今後は、組織的に各機関連携できる体制を整え、関係機関連携を充実させていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・グループ活動の充実	<p>・これまで、利用者数が少ない、時間が合わないなどの理由から、グループ活動を実施しにくかった。その中でも、できる限りサーキット遊び(運動器具を配置して周回する)、対戦ゲーム等のソーシャルスキル遊びを行ってきた。</p> <p>・子どもの年齢や興味、特性によって、一緒に活動するのが難しい場合がある。</p>	<p>・できる限り幅広い年齢の子どもが楽しめるプログラム開発に努めたい。</p>
2	・物理的構造化	<p>構造化の4要因のなかで、①スケジュールの構造化(ボードに表示して見通しを持たせる) ②視覚的構造化(目で見て触って体験する教材の使用) ③ワークシステム(課題を明確にして、自力で完了を目指す) の3要因については、療育に取り入れており、わかりやすい療育の展開に役立っている。</p> <p>一方、④物理的構造化としては、個別課題実施時に、パーテーションで活動場所を区切って構造化しているが、注意集中困難な特性をもつ場合など、パーテーションの仕切りでは、充分といいがたい。</p>	<p>間取り上、物理的構造化には限界があるが、個別療育の時間には、他のスペースのおもちゃが視界に入らないよう工夫していきたい。</p>
3	・ダイナミックな身体活動ができるスペース	<p>ボールや全速力で走るなど、ダイナミックな動きをするには、スペースが限られている。</p>	<p>・物理的な制限は抗しがたいため、現スペースで展開可能な活動を行うこととする。</p> <p>運動については、</p> <ul style="list-style-type: none"> *脳の働きを活性化させる[感覚統合療法] *「身体の動き(動くこと)」「あたま(考えること)」 「こころ(感じること)」の調和のとれた発達を援助する[ムーブメント] <p>と目的を明確化・焦点化し、充実した療育プログラムを提供していきたい。</p> <p>・活動の主旨を保護者様に理解していただけるよう、主旨説明に努めたい。</p>